

2018年（平成30年） 5月11日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

4/19~4/25のNYMEX・WTIは、67.70~68.64ドルの範囲で堅調に推移した。

4月26日は、マクロン仏大統領がトランプ大統領との会談後、米国のイラン核合意離脱の可能性を示唆し、6月限の終値は前日比0.14ドル高の68.19ドルだった。週末27日は、ドル高・ユーロ安による割高感、米国内石油掘削リグ稼働数825基（前週比5基増）の発表などから小反落した。6月限の終値は前日比0.09ドル安の68.10ドル。週明け30日は、ポンペオ米国務長官がイラン核合意見直し、イスラエルのネタニヤフ首相もイランの合意違反を発言、反発した。6月限の終値は前週末比0.47ドル高の68.57ドル。5月1日は、米FRBの利上げ加速観測を背景にドル高・ユーロ安が進行、利益確定売りも出て反落した。6月限の終値は前日比1.32ドル安の67.25ドル。2日は、EIA米国在庫週報で原油・製品ともに予想を上回る積み増しがあったが、ドル安進行やイランを巡る先行き不安から反発した。6月限の終値は0.68ドル高の67.93ドル。3日は、イラン政府高官の核合意見直し拒否発言など、緊張の高まりから続伸した。6月限の終値は前日比0.50ドル高の68.43ドル。週末4日は、イランを巡る先行き懸念から続伸した。ただ、米国内石油掘削リグ稼働数は834基（前週比9基増）と5週連続増加。6月限の終値は前日比1.29ドル高の69.72ドル。週明け7日は、イラン核合意を巡る緊張の高まりを受けて続伸した。6月限の終値は前週末比1.01ドル高の70.73ドルと、3年5ヶ月振りに70ドルの大台を記録した。8日は、売り買いが交錯したが、トランプ大統領の米国のイラン核合意離脱発表後、利益確定売りから5営業日振りに大幅反落した。6月限の終値は1.67ドル安の69.06ドル。9日は、米国の

イラン核合意離脱による将来の原油供給懸念、米EIAの市場予想を上回る原油・製品の取り崩しから大幅反発した。6月限の終値は2.08ドル高の71.14ドルとなった。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場（6月渡し）は、前週は70.00~71.70ドルで推移した。4月26日70.60ドル、27日70.70ドル、5月1日71.70ドル、2日70.30ドル、7日72.70ドル、8日72.70ドル、9日73.40ドルで推移。

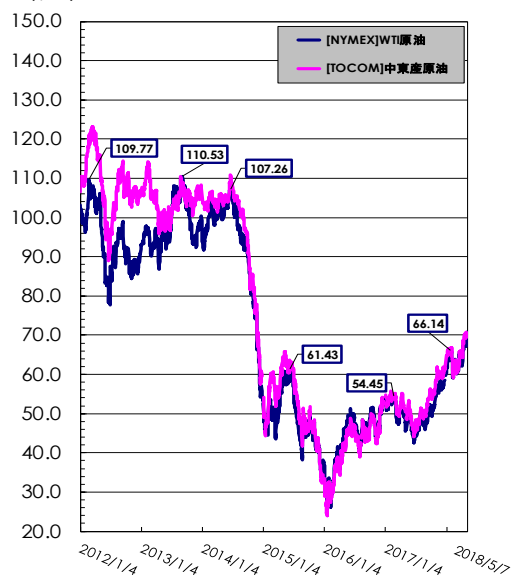
為替は、前週107.48~108.88円で推移した。4月26日109.43円、27日109.35円、5月1日109.36円、2日109.90円、7日108.95円、8日108.91円、9日109.31円で推移した。財務省が9日発表した貿易統計（速報・旬間ベース）によると、4月中旬の原油輸入平均CIF価格は、44,139円/klとなり、前旬を256円上回った。ドル建てでは66.04ドルで前旬比0.03ドル高。為替レートは1ドル/106.25円。

主要元売会社の5月第3週に適用する卸価格はガソリン・軽油・灯油とも1.5~2.0円の値上げ。原油価格は値上がり、為替レートも円安で、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、5月1日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.4円、軽油も同1.4円、灯油は同8円（18%ベース）の値上がりだった。また、5月7日時点の小売価格は、ガソリン同0.4円、軽油も同0.4円、灯油は同3円（18%ベース）の値上がりで、いずれも3週連続の値上がりだった。この週（5月第1~2週）の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン、軽油が1.5~2.0円の値上げ、灯油は0.5~1.5円の値上げだった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/29 ~ 5/5	3,415 ▲29	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	87.2 ▲0.7	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	5/5	13,123 ▲713	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	5/7	72.14 ▲1.27	▲23.1
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	5/7	70.73 ▲2.16	▲24.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月中旬	66.04 ▲0.03	▲12.13
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	44,139 ▲256	▲6,522
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	106.25 ▼-0.57	▲4.69
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/7	109.95 ▲0.41	▲3.79

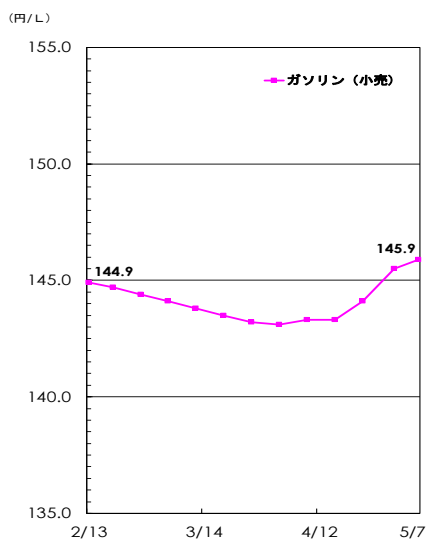
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/29 ~ 5/5	1,017 ▲ 58	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	956 ▲ 23	▼ -	
	輸出	"	118 ▲ 117	▲ -	
	在庫	5/5	1,661 ▼ -57	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/1 ~ 5/7	64.2 ▲ 1.1	▲ 14.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/1 ~ 5/7	63.5 ▲ 0.8	▲ 14.3
		(TOCOM/中部)	5/7	64.0 ▲ 2.0	▲ 15.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/7	145.9 ▲ 0.4	▲ 12.8	

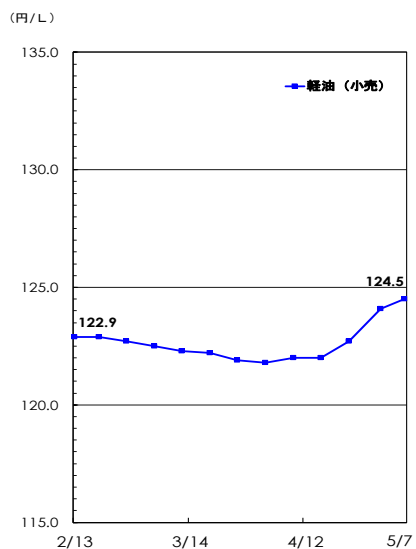
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

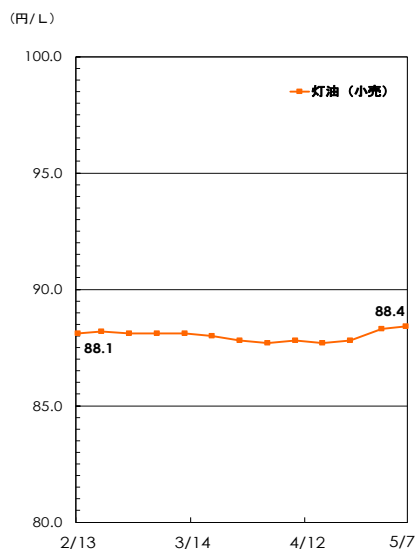
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/29 ~ 5/5	764 ▲ 34	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	437 ▼ -222	▲ -	
	輸出	"	235 ▲ 146	▲ -	
	在庫	5/5	1,527 ▲ 92	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/1 ~ 5/7	65.0 ▲ 0.6	▲ 15.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/1 ~ 5/7	64.3 ▲ 1.2	▲ 16.3
		(TOCOM/中部)	5/7	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/7	124.5 ▲ 0.4	▲ 12.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/29 ~ 5/5	180 ▲ 27	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	93 ▼ -62	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	5/5	1,461 ▲ 87	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/1 ~ 5/7	64.5 ▲ 0.7	▲ 15.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/1 ~ 5/7	64.4 ▲ 1.0	▲ 18.8
		(TOCOM/中部)	5/7	63.7 ▲ 3.2	▲ 17.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/7	88.4 ▲ 0.1	▲ 11.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

5月9日のNYMEX市場WTI原油は、前日のトランプ大統領の米国のイラン核合意離脱表明を受け、将来のイラン原油の供給懸念が高まったことに加え、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、前週2日の在庫積み増し報告から一転、予想に反して、原油・ガソリンともに前週比220万バレル減、中間溜分380万バレル減と取り崩しになったことから大幅反発した。6月限の終値は前日比2.08ドル高の71.14ドルと2014年11月下旬以来3年5か月振りの高値を付け、7月限の終値は前日比2.08ドル高の71.05ドルだった。

EIAによると、4月30日時点のガソリンの小売価格は、前週比4.8セント値上がりの1ガロン2.846ドル(82.9円/ℓ)。

ディーゼルは前週比2.4セント値上がりの3.157ドル(91.9円/ℓ)。ガソリンは3週連続の値上がり、ディーゼルは6週連続の値上がり。また、5月7日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.1セント値下がりの1ガロン2.845ドル(82.5円/ℓ)。ディーゼルは前週比1.4セント値上がりの3.171ドル(92.0円/ℓ)。ガソリンは4週振りの値下がり、ディーゼルは7週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年4月29日～5月5日に休止したトッパー能力は33.7万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は341.5万klと、前週に比べ2.9万kl増加。前年に対しては2.3万klの減少。トッパー稼働率は87.2%と前週に対して0.7ポイントの増加、前年に対しては0.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油、軽油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/6.0%増、ジェット/7.2%減、灯油/17.7%増、軽油/4.7%増、A重油/34.6%減、C重油/5.0%減。今週のC重油の輸入は6.1万kl(前週比6.1万kl増)。軽油の輸出は23.5万kl(前週比14.6万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリンが増加となり、その他の油種で減少となった。前年比では軽油とA重油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は95.6万kl(対前週2.4%増)と前週比で2週連続で増加となり、前年比で4週連続で減少となり、6週連続で100万klを下回った。ジェット5.1万kl

(対前週44.8%減)、灯油9.3万kl(対前週39.9%減)、軽油43.7万kl(対前週33.6%減)、A重油9.9万kl(対前週57.7%減)、C重油11.4万kl(対前週38.5%減)。

(単位:千KL)

	今週 (4/29 ~ 5/5)	前週 (4/22 ~ 4/28)	前週比	
ガソリン	956	933	▲ 23	(2%)
ジェット燃料	51	92	▼ -41	(-45%)
灯油	93	155	▼ -62	(-40%)
軽油	437	659	▼ -222	(-34%)
A重油	99	234	▼ -135	(-58%)
C重油	114	185	▼ -71	(-38%)
合計	1,750	2,258	▼ -508	(-22%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月5日時点の在庫は、ガソリンで取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、ジェット、灯油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは166.1万kl、前週差5.7万kl減。前年に対しては11.6万kl少ない。

灯油は146.1万kl、前週差8.7万kl増。前年に対しては31.3万kl多い。

軽油は152.7万kl、前週差9.2万kl増。前年に対しては19.4万kl少ない。

A重油は78.9万kl、前週差6.3万kl増。前年に対しては4.5万kl少ない。

C重油は201.2万kl、前週差10.9万kl増。前年に対しては8.7万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (5/5)	前週 (4/28)	前週比	
ガソリン	1,661	1,718	▼ -57	(-3%)
ジェット燃料	1,133	1,026	▲ 107	(10%)
灯油	1,461	1,374	▲ 87	(6%)
軽油	1,527	1,435	▲ 92	(6%)
A重油	789	726	▲ 63	(9%)
C重油	2,012	1,903	▲ 109	(6%)
合計	8,583	8,182	▲ 401	(4.9%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月24日から5月7日の原油価格は、前週対比で値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、4月24日～5月7日までの間、ガソリン116～118円台で値上がり、軽油63～65円台で値上がり後横ばい、灯油63～64円台で値上がりで推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン119～120円台で値下がり後やや上昇、軽油62～66円台で大幅に値上がり、

り、灯油63～65円台で出入り後値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン116～117円台で値上がり、軽油62～64円台で大きく値上がり後横ばい、灯油62～65円台で出入り後値上がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油は1.5～2.0円値上げ、灯油は0.5～1.5円の値上げだった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、全油種値上がりした。

5月第3週(5月10日～5月16日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(5月1日～5月7日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.1円、灯油は0.7円、軽油は0.6円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.5円の値下がり、灯油は0.8円、軽油は2.1円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.8円、灯油は1.0円、軽油は1.2円の値上がりだった。原油価格は値上がりし、為替も円安で、原油コストは値上がりした。

5月第3週の大手元売の卸価格は、全油種とも1.5円～2.0円の値上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (5/1 ~ 5/7)	前週 (4/24 ~ 4/30)	前週比
レギュラー	64.2	63.1	▲ 1.1
灯油	64.5	63.8	▲ 0.7
軽油	65.0	64.4	▲ 0.6

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値][平均]	今週 (5/1 ~ 5/7)	前週 (4/24 ~ 4/30)	前週比
レギュラー	63.5	62.7	▲ 0.8
灯油	64.4	63.4	▲ 1.0
軽油	64.3	63.1	▲ 1.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/1～5/7実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.1	▲ 0.8	▲ 1.0
灯油	▲ 0.7	▲ 1.0	▲ 0.9
軽油	▲ 0.6	▲ 1.2	▲ 0.9
A重油	▲ 0.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上/バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

5月1日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.4円高の145.5円、軽油も同1.4円高の124.1円、灯油は同0.5円高の88.3円(18㍈ベースでは同8円高の1,589円)。いずれも2週連続の値上がり。ガソリンの値上がりは46都道府県、横ばいは1県、値下がりはない。全国最安値は徳島県の138.0円(同1.7円高)、次が埼玉県141.6円(同1.8円高)、最高値は長崎県の153.5円(同1.7円高)。最も値上がりしたのは、3.4円高の熊本県(148.6円)。

また、5月7日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円高の145.9円、軽油も同0.4円高の124.5円、灯油は同0.1円高の88.4円(18㍈ベースでは同3円高の1,592円)。いずれも3週連続の値上がり。ガソリンの値上がりは39都道府県、横

ばいは4県、値下がりはない。全国最安値は徳島県の138.8円(同0.8円高)、次が埼玉県の141.6円(同横ばい)、最高値は長崎県の153.8円(同0.3円高)。最も値上がりしたのは、1.6円高の愛知県(144.7円)。最も値下がりしたのは、0.3円安の北海道(145.6円)。

先々週・先週の原油コストは値上りし、5月第3週の大手元売の卸価格は全油種とも1.5～2.0円の値上げ。次週(5月14日調査)のガソリンの小売価格は値上がりか予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (5/7)	前週 (5/1)	前週比	直近高値
レギュラー	145.9	145.5	▲ 0.4	08/8/4 185.1
灯油	88.4	88.3	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	124.5	124.1	▲ 0.4	08/8/4 167.4

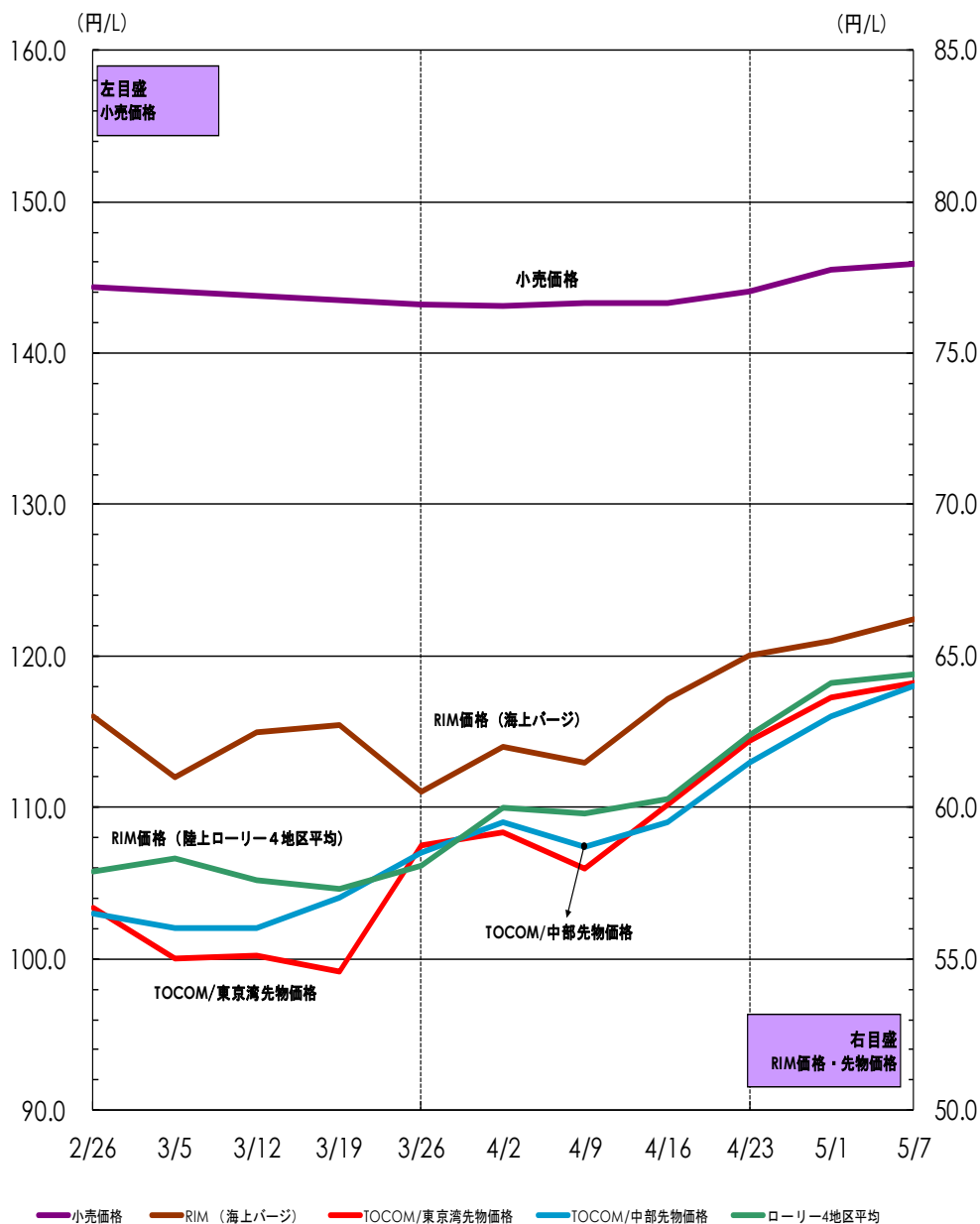
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/2/26 ~ 2018/5/7)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.iecej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第6号)の公表は、5/18(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。